

発 言 通 告 書

令和6年9月12日

松山市議会議長 原 俊 司 殿

松山市議会議員 向 田 将 央

次のとおり通告します。

発言順位	8	受領日時	9月 12日 午前 11時 55分	2 枚中 1 枚目
質問等の方式	一問一答方式		一括方式	発言時間 約 35 分
答弁を求める者	・市長 ・教育長 ・選挙管理委員会委員長 ・公平委員会委員長 ・農業委員会会長 ・監査委員 ・公営企業管理者			

No.	件 名	発 言 の 要 旨
1	緑町土砂災害について	(1) 城山の土砂災害発生時に発令された緊急安全確保は、なぜ緑町に対してではなく、清水地区という非常に広大な地域に対して行われたのか。清水地区の世帯数は1万3,226世帯、2万2,062名にも上る。緑町の1,681名という限られた地域で発生した災害に対し、これだけ多くの世帯数、人数に対して緊急安全確保を発令したことは正しかったのか。このことについての見解とこのような災害情報について、どのようなルールに基づいて発令しているのか。 (2) アラートが鳴るような災害避難情報を発信する場合は、公民館単位で発信するよりも町名ごとに発信する方が、そこに住む住民や遠くに住み安否を案じる家族も、災害の対象となる場所を把握しやすく、市民に寄り添った情報発信の方法だと考えるが、本市の見解を問う。 (3) 本市のホームページに掲載されている、まつやま総合防災マップのページについて、7つのエリアに分かれた防災マップを閲覧できるよう作成されているが、自分の見たい地区がどのエリア版に掲載されているのかを先に確認しないと閲覧できないという分かりづらい構成となっている。例えば、地図上の地区をクリックすると自分の見たい地区がすぐに閲覧できるように改良するだけで、利便性は大きく変わり、活用しやすくなると思うが本市の考えを問う。 また、市民にとって防災という観点から、本当に役に立つホームページの在り方とはどのようなものだと考えているのか所見を問う。 (4) 市長は災害当日には避難所を全て訪問されているにもかかわらず、一連の報道を見た市民の中には、本市の災害対応が後手に回っていると思われる方もいる。災害発生の翌朝の7月13日、市長は現場にも行かれた。現場を確認後、野志市長が決めた対応策と、その日時を問う。 また、今回災害発生した松山城頂上付近の緊急車両用道路では数

[illegible]